

「問題解決のための判断力の育成」

石田了子

社会科 小山均

西野哲之

1. テーマ設定にあたって

(1) これまでの研究の流れ

本校の社会科では、これまでの研究において、「生きてはたらく力の育成～見つけ、確かめ、表現する～」に取り組んできた。事実認識の方法を身に付けるため、事例を通して課題を追求、考察する学習を展開し、その学習課程において調べ方や学び方、見方や考え方を学び、適切に表現する能力や態度の育成を目指してきた。また、このような学習課程の中で、個人の意欲や関心をできるだけ確に評価していこうとする取り組みもおこなった。具体的には同僚参観による「見取り評価」を行い、授業者以外の目から見た評価を授業への改善へとつなげていった。

そして、昨年度の研究では、学習指導要領における学習内容の厳選、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決学習など、生徒の主体的な活動をよりいっそう重視するという観点から、次のような視点で授業実践をおこなった。一つは、社会科の地理的、歴史的、公民的分野のそれぞれの目標である「多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」といわれる点から、「様々な情報から、事実は何かを客観的に考える能力、適切に表現する能力」を目指すことにした。もう一つは、「見取り評価」を行った際、「適切に表現する能力」は学年を追うごとについているように見受けられたことから、発達段階と「適切に表現する能力」との関係を見ていくことにした。

昨年度の研究の初めに、実践を進めていく上での作業仮説を立てた。それは今までの授業実践において、様々な活動を整理してみると「中学1年～3年までの発達段階において思考力・表現力は学年が上がるにつれて徐々に力がついていく」というものであった。このことを作業仮説として研究実践を進めた結果、思考力については「学年があがるにつれて、徐々に力がつく。1年と2・3年生の間に節目があるように感じられた。」という考察結果が出た。また、表現力については「学年があがるにつれて、徐々に力がついていく。1年と2・3年生の間に節目があるように感じられた。課題によっては個人差が見られない。」といった考察結果が出た。この考察結果を踏まえ、表現するときには、必ず資料を読みとるなどして自分なりに考えをつくる作業（判断する場面）が行われているのではないかと考えた。

したがって今年度は、この「自分なりに考えをつくる作業（判断する場面）」に視点をあて、「問題解決のための判断力の育成」というテーマで研究実践を進めて行こうと考えた。

(2) 「問題解決のための判断力の育成」について

・中学1年

中学1年の頃の発達段階では昨年度の考察結果から、「課題を分析したり、整理したりする思考力」や「考えたことを形に表す表現力」はまだ十分ではないと思われる生徒が多いと考える。社会科では、このような発達段階にある生徒の実態、さらに、小学校からのつながりを配慮して、「問題解決のための判断力」を育成するためには、まず、思考力、表現力が必要だと考える。よって、課題を

分析・整理する授業や考えたことを形に表す授業を考えなければいけないと思われる。

・ 中学2・3年

中学2・3年の頃の発達段階は、徐々にではあるが思考力・表現力がついてきているという段階であると考えられる。したがって、「問題解決のための判断力」を育成するためにグループによる話し合いや、ディベートなどを取り入れた、授業の展開を考えていきたい。ただ、このような授業ではどうしても、「AかBか」という選択をせまるものが多くなってしまふ。どちらかを選択をするための判断力もさることながら、実際の世の中では、歩み寄りできる部分をどう考えるのか（合意形成）という判断力も必要であると考えられる。他の意見を参考にし、よりよく問題解決をめざしていく姿勢は、中学校における発達段階において、とても大切なことであると思われる（他と関わる力）。公民的資質を養う場面として、中学2・3年では合意形成の過程を体験させながら、「問題解決のための判断力」を育成していきたいと考えている。

(3) 実態調査（以下取り上げるデータは無作為に抽出した40人中のものである）

・ 1年生 【課題】 日本の災害についてフランス人が書いた文章を読み、自分なりに分類する。

【目的】 文中の事柄を的確に分類する力と視覚的にわかりやすく表す力を見る。

【考察】 災害を地形に関するものと気候に関するものなどを的確に分類し、視覚的にわかりやすく表しているものは4人であった。これは昨年度、同じ課題に取り組ませた現2年生の5人とほぼ同数であった。また、何も書いていなかったり、分類になっていない生徒は、18人であった。これは現2年生の昨年の数値と比べると、5人増えていることになる。今年度は現2、3年生に1年生と同様な課題に取り組ませ、データを取っていないが、昨年度とほぼ同じような数字になるのではないかと予想できる。すなわち、文章を読みとり、それを的確に分類する力や視覚的にわかりやすく表す力は、学年があがるごとについていくと思われる。

・ 2・3年生 【課題】 経営に息詰まったある会社の社長が、「大幅なリストラ」でこれを乗り切ろうとするか、「社員の給料を半額」にしてこれを乗り切ろうとするかで悩んでいる。あなたなら、どちらの改革案を指示しますか。

①自分ならどちらにするか考え、その理由を書きなさい。

②もしも、逆の意見に変わるとしたら、どんな条件を付け加えますか。

③グループで話し合い、逆の立場の意見で納得したことを挙げなさい。

④グループで何か1つ、よりよい案を立ててみよう（いろんな条件を付け加えたり、折衷案でもかまわない）。

【目的】 どちらかを選択するといった判断力はもちろん、歩み寄りできる部分をどう考えるかを見る（合意形成）。

【考察】 実際の社会で最近よく耳にする話題であるため、2・3年生のどちらの学年もしっかりとした意思表示が見られた。ただし、2年生では「②逆の立場に変わるとしたら……」という部分では7人が、「③逆の立場で納得したことは……」という問いに対しては13人が何も記入していなかった。3年生では、②の問いに対して何も記入していない生徒はおらず、③については2人だけ

が無回答であった。さらに「④班で何か1つ、よりよい案を立ててみよう……。」について、2年生では6つのグループのうち3つのグループが案を立てることができなかったのに対し、3年生では、すべてのグループが何らかの案を立てることができた。このことから、自分の意見を持ちつつも、他の意見を参考にしてよりよく問題を解決していく力は、やはり学年があがるにつれて高まっていくのではないかと考えられる。

以上の実態調査を踏まえ、各学年に不足している力はどのようなものかを考え、発達段階に応じて、「問題解決のための判断力の育成」を目指すべく、実践に取り組んでいくことにした。

(4) 小・中の連携について

社会科で取り扱う事柄について適切に表現していくことは、

- ①課題を的確に理解すること。
- ②課題について思考し、判断したりすること。
- ③資料を正確に読みとること。
- ④調査したり、それをまとめたりすること。

など、多くの能力が複雑に関連して成り立つものである。今回取り上げた課題だけでは、どの時期にどんな力がつくのかということは、はっきりと判断できない。したがって、今よりもさらに実際の生徒がどのような能力を持っているかを知るためには、小学校での学習活動がどのようなものであったかを知ることが必要になってくる。中学校での実践を考えていく中で、小学校との連携が必要になっていくという点を考えると、本校研究テーマ「21世紀を担う生徒の育成を目指して～小・中の連携を見据えた中学校教育の探究～」との関連を見つけることができるように思われる。

〈資料〉1年生の課題 わかりやすく分類できた例

②ブスーさんがあげた「自然の脅威に満ちた光景」をあなたなりに分類しなさい。

地災
 絶えず地震と火山の噴火によって、大地が揺り動かされている。地滑り。
風災
 太平洋、日本海両方に面しているため、冬と夏の季節風がぶつかりあう。
水害
 洪水で堤防が決壊したり、氾濫した急流に押し流された砂や小石で水田が埋められたり。
火災
 家が木造で、裸火で暖まる習慣があるため、火事が起こりやすい。
 4つに分類できる。

③ブスーさんがあげた「自然の脅威に満ちた光景」をあなたなりに分類しなさい。

地震と火山の噴火によって、大地が揺り動かされている。
 風
 とついてもない大風がぶつかりあう。一つは冬の季節風、もう一つは夏の季節風。暑い季節の終わりに台風となって、猛威をふるう。
水害
 住宅が木造であることや、土のりや土管などの理由で暖まると土が崩れやすくなる。
水害
 洪水で決壊した堤防や、氾濫した急流に押し流された砂や小石で埋められた水田がある。田舎や住宅が何もないところが多い。

〈資料〉2年生の課題 他の意見を参考にして、よりよい意見を考えようとしていた例

※もし、逆の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

この会社に黒字の他に明確な理由が条件。そして黒字になるまでの期間が短いこと。

※もし、逆の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

- ① 100人全員の給料を半額にするのではなく、社員一人一人の仕事への取り回しの様子を見て何割引くか考える。社員を1対1で話し合う。
- ② 社員にどちらがよいか聞いて社長副社長の意見に賛成の人があきらかに多ければ、
③ 仕方の無い何人か(切れない)を切って捨て、残った社員の給料を何割か減らす。

※もし、逆の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

- ・リストラされた人の働く会社を探して、社員を助けてもらえようにする。
- ・リストラする人数を50人から、25人くらいに減らす。
- ・退職金をたいてもらう。「もらった給料の半年分くらい...?」

〈資料〉3年生の課題 他の意見を参考にして、よりよい意見を考えようとしていた例

※もし、逆の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

西野副社長の意見ではリストラされた人が多すぎると社内全体が機能しなくなると思っからリストラを断行するのであれば、もっと少人数にしたほうがよい。

※もし、逆の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

上役が低い給料をたくさん持つているので、上役の減給の割合を大きくして、下の方はあまり減給しない。つまり、上役と下役の給料の差を減らす。それが嫌な人は他の会社へ行ってもらおう。

※もし、逆の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

生活できる最低限の給料に給料を減らすのはよい。
黒字になった後給料を増やすのはよい。

※もし、逆の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

西野副社長の意見に加え、リストラされた人には新しい職場を探す。そして、リストラされた人も安定した生活がおくれるようにする。

2. 授業実践 1年生の実践から

(1) 指導にあたって

社会科では、今年度「自分なりに考えをつくる作業（判断する場面）」に視点をあて取り組んでいる。特に、2、3年においては「合意形成」の過程を体験させながら、「問題解決のための判断力」を育成することを目標としている。1年生では、発達段階にあわせ、7月頃までは、「課題を分析・整理する活動や考えたことを形に表す活動」「自分の考えに、お互いの考えや表現方法を取り入れる活動」を重点的に授業の中に取り入れ、その後、徐々に「合意形成」の過程を体験させる授業を行った。

(2) 「課題を分析・整理する活動や考えたことを形に表す活動」「自分の考えに、お互いの考えや表現方法を取り入れる活動」の取り組み

① 歴史 「我が国の歴史について関心ある主題を設定し、まとめる作業的な活動」

この作業的な活動は、「中学校における歴史学習の導入として、時代の移り変わりに気付かせるとともに、歴史を学ぶ意欲を高めることがねらいである。」(学習指導要領 解説より)

次のような計画を生徒に示して、進めた。

	すること	注意するところ。
1 時間目	<ul style="list-style-type: none"> 自分のテーマを決める。 まとめ方の計画を立て、レイアウトを考え、「ワークシート1」に書き込む。 「ワークシート1」が仕上がったら、先生にチェックをうける。 <p>この時間に、全員、ここまでできるように・・・</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で学んだことを思い出して、テーマを設定する。例えば・・・ 「歴史上の人物について（政治編）」 「歴史上の人物について（文化編）」 「食事の変化」「住居の変化」 「外国とのつながりについて」など。 <p>いくつものことを調べることをないように。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4つ以上の時代にまたがるように計画をたてる。
2 時間目	<ul style="list-style-type: none"> 「ワークシート2」にまとめる。 「自分が調べ、まとめている内容で、日本を変えた人物、もの、出来事は何か？」を考えながらまとめる。 「ワークシート2」を仕上げる時間は3時間。 	<ul style="list-style-type: none"> 年代（794年など）と時代区分（平安時代など）を必ず入れる。 文章だけでなく、イラスト、カレンダー、地図などを入れてまとめる。 色鉛筆や色ペンを使って、美しくまとめる。
3 時間目	(4時間目)まで。時間を考えて、頑張ろう！	<ul style="list-style-type: none"> 説明文は短い文にして、わかりやすくまとめる。
4 時間目	<ul style="list-style-type: none"> この時間で、「ワークシート2」を仕上げる。 「ワークシート2」の最後に、「自分が調べ、まとめている内容で、日本を変えた人物、もの、出来事は何か？」を書く。 次の時間は、「はさみ」を持ってきてください 	
5 時間目	<p>友達の作品を見よう!!</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生活班でグループをつくる。 ②1班→2班, 2班→3班, 3班→4班, 4班→5班, 5班→6班, 6班→1班のすべての人の作品を見る。 	<p>……すみずみまで、じっくりと見ましょう。どんな部分が「すごいなあ」と思ったのか「わかった」のか、いいところを</p>

- ③一人ひとりにコメントを書く。
- ④1班→3班, 2班→4班, 3班→5班,
4班→6班, 5班→1班, 6班→2班
のすべての人の作品を見る。
- ⑤コメントを書いたプリントをはさみで切って, 相手にわたす。
- ⑥自分の作品を先生に提出。

たくさん見つけましょう。
……みつけた良いところを, できるだけ詳しく,
たくさん書いてあげましょう。

この計画の5時間目を, 広島大学大学院教授 森敏昭先生に参観していただいた。この授業では, 上記の計画書とおり, 生徒一人ひとりが, 他の生徒の完成したワークシートを見て回り, 見たワークシートに関して「次からの歴史の授業が好きになり, 意欲的に取り組める」ようなコメントを書いて渡すことを行った。森先生からは次のような助言をいただいた。

- ・本日の授業は「和 (なごみ) の黄の糸」(他者評価) の授業であった。(P, 23参照)
- ・生徒は, 友達のワークシートに対してのコメント方法をよく理解していなかった。コメント方法や発表方法は, 次の順序で行うとよい。
 - 1, 教師がよいモデルを示す。(modeling)
 - 2, 教師が手取り足取り教える。(coaching)
 - 3, 失敗しそうになったら手助けしてあげる。(scaffolding)
 - 4, 教師の支援をしだいに少なくして, 学習者を最終的に自立させる。(fading)
- ・本日の授業は, それぞれのワークシートを見せ合う授業であったが, 1人の生徒にワークシートの内容を発表させて, それについてコメントを発表形式で出し合うと, 1つの発表に対して, 「Aさんはこんな見方をした」とか「自分にはなかった見方だ」ということに気付くことができる。
- ・発表させ, 交流することで, 学び合い, お互いを磨き合うことができる。

以上の森先生のお話をもとに, 「課題を分析・整理する活動や考えたことを形に表す活動」「自分の考えに, お互いの考えや表現方法を取り入れる活動」の取り組みをいくつか実践した。次の②はその中の1つの実践例である。

② 地理 「世界の各州の特色を整理し, イメージ色を考える」活動

学習指導要領の地理的分野の 2 内容 (1) 世界と日本の地域構成の ア 世界の地域構成 (イ) 国々の構成と地域区分において, ワークシートを作成し, 作業活動を進めた。

このワークシートでは, 以下の欄を設けた。

- 1, 各州の特色についてまとめる欄 (分析・整理)
- 2, 自分が考えた各州のイメージ色について書く欄
- 3, イメージ色の発表より, 友達の考えたイメージ色についてのメモ欄
- 4, 発表を聞いて自分のイメージ色の考えが変わった場合に理由を書く欄

(お互いの考えや表現方法を取り入れる)

各州の特色を整理し、イメージ色を決めよう。 組番名前

イメージ色が決まらなければ、各州の特色だけ、欄に書き込もう。

なぜ、そのイメージ色に決めたのか、理由を書こう。

(参考) 資料集 P.10~19 用語集 P.13~16

州	州の特色	イメージ色	その色にした理由
アジア	様々な宗教が集まっており、人々の 味まり(ベンガラシヤ)も人それぞれである 5つに分かれていて、ユーラシア大陸のほと んどを占めている。	虹 色	文化も、宗教も、それな り違うから、いろいろな 色ということ、虹色に決 めた。
オセアニア	昔からの文化や住居の作りなど、今も残 りながら伝わっている州。自然と共存 して過ごしている。	緑	自然の中で生きている から、森林の色であ ることにしました。
アフリカ	動物などが多くいて、気温が高い エンボットのヒラミットなど、有名な築 造物が多い。	茶 色	砂漠の砂の色だし昔 からある色が茶色の 海産物の ものばかりだから。
ヨーロッパ	歴史的な建物が多く、芸術的な州。 環境も良く、数多くの動物が生息し ている。有名な川もあり、世界的に有名。	緑 と 青	自然が豊かで、森林 も多いから。それに海が 近いので、人の生活に水が 関わっているから。
北アメリカ	世界の政治、経済、文化の中心地であ る国があり、海に囲まれている。 音楽も発達しており、世界遺産もある。	紫 色	湖も多いし、とても発達 して誇りつた昔と、特異的 なランの「赤」が混ざり ているから。
南アメリカ	赤道直下であり、歌など盛んに 行われている。世界遺産のイヌカ もあり、エネルギーなリオのカニバルが ブラジルで行われている。	赤	リオのカニバルなどから 小情緒的なし、 気温も高いから。

・友達に「イメージ色」をどのようにつけていましたか？感想を書きましょう。
 国旗の色で分けたり、その国の工業で分けたりと、私
 が考えつかない方法で色をつけていて、びっくりしました。
 見方を少し変えるだけで、別のイメージ色はいろいろあるんた
 なあ。

・友達の記事を読んで、自分が決めたイメージ色が変わった部分を記入しよう。
 また、なぜ、変わったのか理由も書きましょう。
 色は変わりませんでした。ですが、君の、ヨーロッパの見方
 がいいと思いました。国の工業などで見方を考えること
 です。環境以外でも考えられるんたなあ。(色で色をつけたのとよ
 似て)

(3) 「合意形成」の過程を体験する授業の取り組み

1年生では主に「課題を分析・整理する活動や考えたことを形に表す活動」「自分の考えに、お互いの考
えや表現方法を取り入れる活動」の取り組みの実践を行いながら、「合意形成」の過程を体験させる授業に
も取り組んだ。

7月の同僚参観についての指導案

社会科 同僚参観授業略案

平成17年7月11日(月)

第1限 1-3教室 第5限 1-1教室

第6限 1-2教室

指導者 石田了子

- 1, 本時の学習 題材名 奈良時代の貴族と農民
- 2, 目 標
- ・「墾田永年私財法」が出された理由と問題点から、自分が政府の役人であったならば、「墾田永年私財法」をどのように改良したかを考え、当時、この法律が苦肉の策として出されたことに気付くことができる。
 - ・「改良 墾田永年私財法」を考える過程で、友達のを考えを取り入れながら、自分の考えをワークシートにまとめることができる。 【評価の観点：社会的な思考・判断】
- 3, 本時の展開

学習活動・内容	教師の支援および留意点	評価規準・評価方法
<p>1, 「墾田永年私財法」の内容を確認する。</p> <p>2, 「墾田永年私財法」ができた理由を思い出す。</p> <p>3, 「墾田永年私財法」が、できた後の社会の状態と、問題点を資料で確認する。</p> <p>4, 『「墾田永年私財法」を出した、政府は、このような問題点が出てくることを予想していなかったのだろうか?』ということについて、もう1度考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ○農民の逃亡・人口増加で口分田が不足してきたから。 ○大仏を作る事業に豪族を協力させるため。 ・前時に資料プリントで確認したことを復習する。 ・「その後、どんな状態になったか」を確認する。 ・墾田永年私財法の1番の問題点として、「この法律ができて、税がしっかりと国に入ってこなかった」ということを確認する。 ・この法律には問題が出ることも予想されていたが、この法律を出さざるを得なかった政府側の事情もあったことを確認する。 ・「自分たちが当時の政府の役人だったら、どうしたか」を、生徒が考えたいかなるよう進める。 	
課題 「墾田永年私財法」はどのように改良されたらよかったですか?		
<p>5, 合意形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように改良されたらよかったですか、グループで話し合い、ワークシートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな作業をするのか、全員にわかるように、簡単・明確な言葉で説明する。 ・法律の問題点と、政府側の事情を参考に、話し合うように促す。 	

<p>・グループの意見を発表する。</p> <p>6. 授業のふり返りを記入する。</p>	<p>・聞く生徒にとってわかりやすい発表となるよう支援する。</p> <p>・他のグループの意見を聞いて、参考になる意見や納得した意見をメモさせる。</p> <p>・学習の過程をふり返らせ、グループ内、グループ外の友達の考えを取り入れ、自分の意見がどのようになっていったかを確認させる。</p>	<p>A評価：グループ内外の友達の考えを、いくつか取り入れながら、自分の意見をワークシートにまとめている。</p> <p>B評価：グループ内外の友達の考えを1つ取り入れながら、自分の意見をワークシートにまとめている。</p>
	<p>B評価となるための支援：</p> <p>・自分のワークシートを最初から見直すように促す。 (自分の最初の考え。グループで話し合ったこと。発表を聞いて資料をみなおして。)</p> <p>・授業のふり返りワークシートの、わからなかったこと・質問に教師が答える。</p>	<p>【社会的な思考・判断】</p>

同僚参観後、「合意形成」の内容に関するもので、次のような助言をいただいた。

・「合意形成」はどのようになったら、合意が形成されたこととなるのか？

「合意形成」の過程を体験させる授業で、大切な場面が他の意見を聞く場（発表の場）である。個々の意見をしっかりとさせてから、発表させることが大切なポイントとなる。発表時の意見をしっかりとさせるためには、教師がその意見のわかりにくいところを聞き返す、繰り返すなどの支援が必要である。

1年生はどんどん意見を発表するが、論理的に理由を述べることのできる生徒が少ない。しっかりとした発表を聞いて（させて）、合意が形成されるのではないか。

・課題考察のために必要な確認事項を明確にし、全員の「共通理解（知識）、考察の条件」とする。

本時の場合、下記のように農民の置かれていた「状況」や「システム」の確認がさらに必要である。

- 1, 墾田永年私財法によって農地は拡大したのに、なぜ税が入らないのか？
- 2, 貴族は税金を納めたのか否か？
- 3, 農民は貴族に従属した場合、公民ではなくなったのか？その場合、税金を納めたのか否か？
- 4, 農民は貴族に従属した場合、兵役や防人の義務はどうなったのか？

確認の際には、教師が一覧表にして示したり、生徒に疑問を促すなどの方法がある。

・生徒にとって考えやすく、意欲の出る課題とするためには、「過去形の課題」がよいか、「現在形の課題」がよいか。

本時の課題は「過去形」。「過去形」にすると、生徒は実際にはこの法律は変わらなかったという事実を無視して考えることにならないか。

『あなたなら、どう改良しますか？』と「現在形」にすると、架空のことを考えるので、生徒が考えやすく、意欲を出しやすいのでは。

授業をふり返ってみよう！

組 番 名前

・自分のグループで作成した「改良 墾田永年私財法」と他のグループが作成した「改良 墾田永年私財法」を参考に、「私の、改良 墾田永年私財法」を作成しましょう。

・農民の税を、収入の2%とし、荘園で農民がやとわれるというのを禁止する。それでも、荘園でやとわれている農民がいた場合、口分田をぼしやうする。

そいつの

・この改良版を作成した理由

さんが考えたことが納得できたから。

↓
私達のグループの考え。

↓
荘園で農民をやとわれることを禁止すること。

↓
農民の税を3%から
2%にする。=税を少したけへらす。

口分田をぼしやうするという考えは
私自身で考えたものです。いい罪に
なると思います。

・この授業でわかったこと

墾田永年私財法は、とてもいい法律だけれども、私達は、改良した方がいいと思う点
があったということは、墾田永年私財法は、完璧な法律ではないということ。おぼろ
かりました。でも、政府は、また新しい法律というものを政府はつくらなかつた。そのころの政
府は豪族よりも権力がなかつた。

(4) 実践後の感想と考察

生徒の様子より

(2), (3)の授業において、生徒は発表時、他の意見を聞いたときの感想を次のように書いている。

- ・わかりやすい説明に納得した。(なるほどと思い、おもしろいと思い、びっくりして納得した。)
- ・資料を見る視点が自分と違っていた。 ・資料のいろいろなところを見ていて感心した。
- ・自分が読みとれなかったことを資料から読み取っていた。
- ・こんな考え方もあるのかと思った。
- ・自分もそう思っていたけれど、ピッタリの表現をしてくれた。
- ・〇〇さんは自分と同じ意見だった。

以上のような感想を持ち、他の意見を柔軟に取り入れることができる。しかし、他の意見をそのまま取り入れるだけでなく、取り入れて、更により良い解決策を見いだすという段階までに達していない。

森先生からの御助言、同僚参観整理会より

森先生からの御助言、同僚参観整理会より、「自分の考えに、お互いの考えや表現方法を取り入れる活動」や「『合意形成』の過程を体験させる活動」で、特に教師が丁寧に考え、支援していかなければいけないことは、次のことであると感じた。

- ・森先生の御助言の中にあつた、「modeling」～「fading」間での過程。
- ・お互いの考えや表現方法を取り入れる基礎となる場、発表の場において、生徒にもっと丁寧に発表させ、教師ももっと丁寧に取り上げていくこと。

〈歴史的分野〉 2年生の実践

(1) はじめに

今回は、歴史的分野において、自分の意見を持ちつつも、どこまで歩み寄りできるかを考える場面（合意形成）を設定してみることにした。公民的分野では比較的设置しやすい合意形成の場面であるが、歴史的分野ではすでに既成事実として当時の要人たちが歴史の節目で判断を下してしまっているのでやりづらい面もある。ただ、歴史として刻まれていることがすべて正解であるというとらえ方ではなく、歴史の「なぜ」を知る上で、課題に対する意見を交換することは大切なことと思われる。したがって、歴史の節目といわれる場面で自分ならどんな判断を下したかを考え、他の意見や歴史的事実と比較することで、「問題解決のための判断力」を育成していきたいと考えた。

(2) 6月の研究授業

2年 3組 社会科 学習指導案

平成17年6月14日（火）

第5限 2-3教室

指導者 小山 均

1. 題材名 明治維新

2. 目標

- ・明治維新の経緯のあらましに関心を高めさせ、意欲的に追究させる。
- ・明治維新の動きを諸改革の内容を通して理解させ、短期間に近代国家の基礎が整えられていったことへの政府や人々の努力や生活の変化について多面的・多角的にとらえさせる。

3. 評価の観点及び規準

① 社会的事象への関心・意欲・態度

- ・明治維新の経緯のあらましに関心を高め、意欲的に追究している。
- ・身近な地域で、明治維新にまつわることや、文明開化、自由民権運動について興味を持ち、進んで追究している。

② 社会的な思考・判断

- ・新政府側の諸政策を、政府側からと民衆側から考察し、公正に判断している。
- ・自由民権運動から憲法制定までの時期について、自由民権側と政府側の立場に立って考察し、公正に判断している。

③ 資料活用の技能・表現

- ・文明開化について人々の生活が大きく変化したことを、江戸時代と比較して説明している。
- ・自由民権運動について、適切な資料からまとめ、主張を説明している。

④ 社会的事象についての知識・理解

- ・新政府の諸改革の内容や意図を理解し、その知識を身につけている。
- ・中央集権国家としての近代日本を理解し、その具体的な要件となる知識を身につけている。

4. 指導にあたって

【教材観】

この題材の「明治維新」では、欧米各国における資本主義の進展のもとで、アジア諸国が列強の支配下にさらされつつある中、日本が近代化を進めたことを取り扱う。近代国家として明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、議会の開設がその骨格となっていく。中でも明治維新はこれまでの武家社会を武士が中心になって改革し、形の上で天皇を中心とした中央集権国家となるという他国にはない複雑な近代化の流れを創りだしている。この急激で、複雑な近代化の歩みの中で、さまざまな立場の人たちが新しい日本を創り出そうと努力してきた。この題材は時代の大きな変革期の中で、当時の要人たちがどのように日本を捉え、どのような思いで改革を行ったのかという点と、歴史の「なぜ」を理解する上でとても大切な題材であると考えている。したがって、ここでは当時の要人の日記を通してその心情を探ったり、諸改革のねらいや目的、改革に対する意見やその影響についての資料を取り扱い、日本の近代化はどのような課題の中でおこなわれたものであるのかということに目を向け、考えさせていきたい。

【生徒観】

授業においては活発な発言が見られ、歴史で取り上げられる社会的事象への興味・関心も高いと思われる。ただし、最近は徐々に発言する生徒が固定されており、ひとり一人の考えを引き出す工夫をしなければいけないと感じている。この題材は現代におけるさまざまなしくみにつながる社会的事象が多く見られる。よって、取り扱う資料に工夫を加え、設定する課題はより生徒が身近に考えられるものとするようにし、どんどん生徒の意見を採り上げ、歴史の「なぜ」にせまっていこうと思っている。

【指導観】

昨年度の考察結果から、中学2・3年の頃の発達段階は、徐々にではあるが思考力・表現力がついてきている段階であると考えている。したがって、「問題解決のための判断力」を育成するためにグループによる話し合い、自分の意見と友達の見解を比較する中で、考え、わかる授業をめざしていきたい。また、自分の意見との比較もさることながら、実際の世の中では、歩み寄りができる部分をどう考えるのかという判断力（合意形成）も必要であると考えている。他の意見を参考にしてよりよく問題解決をめざしていく姿勢は、中学校における発達段階において、とても大切なことであると思われる（他と関わる力）。公民的資質を養う場面として、中学2・3年では合意形成の過程を体験させながら、「問題解決のための判断力」を育成していきたいと考えている。

5. 指導計画及び評価計画（総時数7時間）

指導計画		評価計画
第二次	明治維新（7時間）	
第1時	新政府の成立	①④
第2時	維新の三大改革	②④
第3時	文明国をめざして	①③
第4時	近代的な国際関係	③④
第5時	専制政治への不満	②④
第6時	立憲国家の成立	①③④
第7時	明治政府と武士【本時】	②

6. 本時の学習 (第7次中の7時)

(1) 題材名 明治政府と武士

(2) ねらい ・新政府が抱えていた課題を知り、その対応について、自分の意見を持ち、その理由を説明することができる。

・実際におこなわれた新政府の対応により、やがて武士が消滅していくことに気づく。

(3) 評価の観点及び規準

① 社会的な思考・判断……別紙の評価規準表を参照

(4) 発達段階に応じた学習活動について

明治政府が抱えていた課題に気づき、その対応策を考えさせる。今回は、政策の選択をおこない、それぞれの判断理由について、意見交換させたい。また、お互いの意見を聞き入れ、よりよい解決策を考えさせるために、合意形成の場面を設定する。実社会ではお互いの歩み寄りの部分をどう考えるのかということが大切であり、今回は歴史の中で実際におこなわれた合意形成を題材に考えさせ、その流れを捉えさせたい。

(5) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点	評価規準および方法	時間
1. 前時の復習	・日本は欧米の近代化を手本として、アジア諸国で最初の近代化を成し遂げたことを確認する。		5
2. 資料の提示	・当時、明治政府の中に急激な近代化に対して疑問を持つ声があったことを紹介する。 ・明治政府は「武士への対応策に悩んでいたことに気づかせる。		5
3. 課題の提示			15
課題 「明治政府は武士に対してどのように対応すればよかったのだろうか？」			
・2つの選択肢のどちらを選ぶかについて考える。 A案:武士を農民に組み入れる。 B案:武士を政府の役人にする。 ・ネームプレートで自分の考えはどちらなのか意思表示する。 ・各自が示した考えについて、その理由を発表し合う。	・どちらか一方を選ばせ、その理由を書かせる。 (政策の選択) ・黒板にA案、B案の欄を作り、自分のネームプレートを各自に貼らせ、自分の意志を表示させる。 ・友達の見聞を聞いて、参考になる意見や反対意見の中でも納得できる意見があればメモさせる。	①ワークシートの記入・発表 ・自分がどちらかに判断した理由を明確に説明できているか。 (思考・判断) ・なかなか判断できない生徒に対しては、これまで学習してきた社会的事象を紹介しながら説明を加えるようにする。(四民平等・明治維新は武士による改革だったこと など)	10
4. 合意形成 ・A案またはB案に何か条件を加えてみよう! (A案、B案のどちらかでは解決が難しいので、新しい条件を加え、解決案を考える。)	・A案については資料「武士のプライド」、B案については資料「政府の財政」を提示する。		10
5. どんな条件を加えたかを発表する	・各自が加えた条件を発表させ、多くの対応策があることに気づかせる。 ・実際の政府の対応を確認して、やがて武士が庶民と同化し、消滅していったことに気づかせる。 ・大久保利通も武士の行く末を案じていたことをビデオで紹介する。	①ワークシートの記入・発表 ・自分たちの考えたC案が、やがて武士の消滅に結びつくことに気づくか。 (思考・判断) ・気づかない生徒には、実際に政府が考えた武士への対応策を確認し、このあと武士がどうなったかを考えさせる。	10
6. 振り返りプリントの記入	・学習の過程を振り返らせ、自分の意見がどのように変わっていったかを確認させる。		5

社会2年 評価規準・評価方法

単元名及び目標	おもな学習活動	社会的対象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用 の技能・表現	社会的対象についての 知識・理解
7 時間	<p>①政府の方針や諸改革の内容を調べ、身分制度の廃止の意義と問題点について考える。</p> <p>②新政府が行った富国強兵政策などの諸改革が人々へもたらした影響について考える。</p> <p>③新政府がめざした殖産興業政策の具体的な内容をとらえ、文明開化などで人々の生活が大きく変化したことに気づく。</p> <p>④領土の画定に関して、新政府が行った外交政策を理解し、沖縄県の成立の過程を中国との関係に着目しながら考える。</p> <p>⑤専制政治への不満から民権運動や士族の反乱が起きた過程を理解し、自由民権運動の高まりを考える。</p> <p>⑥政党の結成や憲法制定の過程を調べ、憲法の特色を理解し、憲法に基づいて議会政治が始まり、立憲国家が成立したことをとらえる。</p> <p>⑦明治政府が抱えていた課題を知り、その対応策について自分の意見を持つ。</p>	<p>・明治維新の経緯のあらましに関心を高め、意欲的に追究している。</p> <p>・産業や文化の面で、新政府がめざした近代化政策に興味を持ち、意欲的に追究している。</p> <p>・憲法の内容や選挙制度に関心をもち、意欲的に追究している。</p>	<p>・新政府が行った富国強兵政策の趣旨を政府側から考察し、また民衆への影響を公正に判断している。</p> <p>・自由民権運動から憲法制定に至るまでの時期について、自由民権側と政府側の立場に立って、それぞれの主張を考察している。</p> <p>・新政府が抱えていた課題を知り、その対応について、自分の意見を持ち、その理由を説明することができる。</p> <p>・政府の対応により、やがて武士が消滅することになり、気づく。</p>	<p>・文明開化など欧米文化の流入によって、人々の生活が大きく変化したことを江戸時代と比較しながらまとめ、説明している。</p> <p>・領土の画定について、地図上にその範囲をまとめたり、説明したりしている。</p> <p>・政党の結成や憲法制定の過程、選挙制度について資料からまとめ、説明している。</p>	<p>・富国強兵政策の内容を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>・領土の画定に関して、新政府が行った外交政策を理解する。</p> <p>・専制政治への不満から民権運動や士族の反乱が起きた過程を理解する。</p> <p>・アジアで唯一の立憲国家が成立したことに気づき、憲法の特色や近代国家の基礎が整えられたことを理解する。</p>
評価B	<p>・観察</p> <p>意欲的に取り組んでいるか</p> <p>・ワークシート</p> <p>自分なりにまとめようとしている。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>基本的な考え方ができているか。</p> <p>・ワークシート</p> <p>明治政府がめざした日本像を考えながら、諸改革を考察することができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>ワークシート</p> <p>資料を分析してわかったことを表現できる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>ワークシート</p> <p>資料を多角的に分析して、わかったことを関連づけて表現することができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>単元テストにおいて社会的対象がどれだけ整理・理解されているかを見る。</p>
評価A	<p>・観察</p> <p>積極的な発言が見られ、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・ワークシート</p> <p>他人の意見を聴きながら、自分なりにまとめようとしている。</p> <p>・提出物をつかりと出させる。</p> <p>・机間巡視による支援をおこなう。</p> <p>・振り返りプリントによる事後アドバイスをおこなう。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>社会的な思考に基づいた考察が見られる。</p> <p>・ワークシート</p> <p>諸改革を考察する中で、自分の意見を持つことができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>ワークシート</p> <p>資料を多角的に分析して、わかったことを関連づけて表現することができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>ワークシート</p> <p>資料を多角的に分析して、わかったことを関連づけて表現することができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>単元テストにおいて社会的対象がどれだけ整理・理解されているかを見る。</p>
評価C	<p>・提出物をつかりと出させる。</p> <p>・机間巡視による支援をおこなう。</p> <p>・振り返りプリントによる事後アドバイスをおこなう。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>社会的な思考に基づいた考察が見られる。</p> <p>・ワークシート</p> <p>諸改革を考察する中で、自分の意見を持つことができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>ワークシート</p> <p>資料を多角的に分析して、わかったことを関連づけて表現することができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>ワークシート</p> <p>資料を多角的に分析して、わかったことを関連づけて表現することができる。</p>	<p>・ペーパーテスト</p> <p>単元テストにおいて社会的対象がどれだけ整理・理解されているかを見る。</p>

2年組番氏名

☆自分の意見に取り入れた部分（A案またはB案に付け足した部分）を書き出してみよう。

☆実際の歴史と比較してみよう。

（政府が武士におこなったことと〈そのねらい〉）を書き出してみよう。

☆自分の考えた意見と実際におこなわれた政府の政策と比較して、感じたことを書いてみよう。

授業ふり返しプリント（社会）

月 日 曜日 限目

2年組番氏名

1. 今日の授業のキーワード（いくつでも。自分で考えて・・・）

2. わかったこと（できるだけ簡潔に）

3. わからなかったこと・質問

4. 授業について

(1) 授業に参加できましたか。

ア 参加した

イ 参加できなかった

(2) 自分で調べたり、考えたりできましたか。

ア できた

イ あまりできなかった

(3) 発表したり、意見を言うことができましたか。

ア できた

イ あまりできなかった

〈資料1 生徒の書いたワークシート〉

☆ 自分の意見に取り入れた部分（A案またはB案に付け足した部分）を書き出してみよう。

A案 武士を農民に組み入れる

B案 武士を政府の役人にする

○ 新政府の取り組みの中心にならしてもらおう。+ ⑤
→ 殖産興業とか新しい方面について。

A+全ての武士を農民にしたら、能力のあるものだけを役人に招く。
A+武士、農民の土地をちゃんと増やす。

A+ いったん武士を農民にするという。農民や武士(平民) 役人になりたい人をば集めて、そこから選挙をすればよいと思う。そこで、武士がうまい仕事をこなせていければ良いと思う。(でも、絶対的に近い農民の中にも才能のある人もいると思うから、取の仕事を選ぶ権利の自由を認めるは良いと思う。)

B+ 政府の役人にしたあと、自能力のある人は、上の方の仕事で、ない人は雑用や下の方の仕事に就かせる。または農民にする。

A+ 新田開発と農民だけでなく、商人や職人、軍人、役人に就かせる。

B+ 才能のない人を農民にする

B+ 能力のあるものは、役人のままで、
能力のないものは、農民にしてしまう。

① + 選挙で役人を決める。

A+ 武士の政府に対する権限を農民より強める
(政府に対して意見提案があって、その道理が通ってれば政府に申し出て良いことにする)
才能ある人役人にする

役人の仕事をしていて能力がなく
B+ 仕事の効率が悪く武士は農民にしてしまう。

A+ 農民にしたあと、才能のある人からその能力を必要としている所に就かせる。役人だけではなく、一人一人から希望を聞いて、人数を調整しながら職に就かせていく。不満を言う人がでてきたら、軍に入れる。 長らくたつ。

A+ 権力があつた武士全体の半分くらいを政府の役人にして、半分は農民にする。

☆ 自分の考えた意見と実際に行われた政府の政策とを比較して、感じたことを書いてみよう。

政府の政策の大半が農民と武士の差をなくするための提案Aに近いものだったと思う。でも少しは武士の生活を助け、不満をやらげずために幸失して士族とその家族を仕事につかせようとする面もある。でも、北海道とか工場とかきびしい仕事だし、私も嫌だとして行きたくないなと思う。だから政府の目的はAに近い(農民と武士の差をちがめる)ものだったと思う。

士族の特権はどんどんなくなったが、士族の人に仕事を つくるようにしていた。反乱を防ぎたかったというように思っている。

私の考えはBだ、けれど、政府の考えはAに近かった。政府の考えは、武士のプライドを傷つけるんじゃないかなあと思った。

A案に近い意見が多いと思った。でもあまりにもどうも実情を無視して武士たちはついていけないか、では? と思った。むしろ逆めたいほうが多いと思った。

今では武士が特権とかいふのがあって、それを無くしたら不満は絶対あるだろうけど、やっぱり武士と農民をたまたま同じぐらいにしようかなと思う。

政府が武士に対して行った政策は、武士にとって不満が出るような政策が多く、それが、武士の反乱などにも関係していると思います。

私がか考えた意見とは反対に、政府がしたことばAの考えに近づいた方が多かった。

新政府は④と⑤を大抵半々ぐらいい取り混ぜていっていると思う。でも、④のやつは自分の考えをよぶ士族をリーダー化するもので、なくてはあつて一般のものとして募集していこうも、かゝる自分の理想と少し意味合いが違ふなあと考えた。

明治維新で武士は政府から不利な事ばかりでこたえ、たゞ不満が高まり反乱が起こるは当然前かと思う。

政府の政策はあまりいいものではなかったと思う。武士の特権をうばいすぎたし、急ぎすぎたと思う。もう少しいい案はなかったのか?

武士をいい位につけておいて才能がなか、未だ農民いっつら部分があったかもしれない。行き先のなくなった武士を援助して武士のくらしをとりあえず安定させようと政府はしていたんかと思う。

私は僕の意見が、たゞすが、政府は士族に対しては厳しいことをしんじやないか? と思いました。武士と農民の差はなくな、べきだけれど、やっぱり、政府はもう少し士族に特権のよさを全うすべきかと思、ました。

(3) 実践後の感想と考察

今回の授業では自分の意見を持ちつつ、他人の意見を取り入れながらよりよい解決策を目指す「合意形成」を大きな柱として授業を行ってみた。実際の社会生活においては、必ずジレンマ（課題）に出くわすときがある。その時に、自分の主張だけを押し通そうとしてもことは運ばない。歩みよれる条件、保留条件を見つけたさなくてはならない。その保留条件が正しいのか、正しくないのかというよりも、保留条件を導き出そうとする経験を積むところに「合意形成」を授業で取り入れる意味があると思われる。

授業で「合意形成」を行ってみて、次のような感想を持った。一つは課題がはっきりとしなければいけないということを感じた。何らかの解決策を模索するのだから、問題点がはっきりしていなくてはならない。また、今回のように、2つの解決策をあらかじめ用意してどちらかを選ばせておいて、よりよい解決策を考えさせるのというのは授業で「合意形成」を行わせる初期の段階では有効だったように思われた。あえて、2つの選択肢が対立するようなものにすればするほど、よりよい案を考えるようになるのではないか。もう一つは、歴史の節目で、自分の考えを持つことは歴史の流れや「なぜ」といった部分を考えるきっかけになるように感じた。自分の考えと実際に歴史上の事実とを比較する中で、どうして当時の人たちはこのように考えたのだろうというような、歴史的背景などに視点が行くのではないかとと思われる。歴史の授業において、「なぜ」の部分を考えさせることはとても大切なことであることは周知の通りである。歴史的分野では「合意形成」は扱いにくいといわれる部分があるが、このような面からアプローチしていけば、まだまだ広がりのある授業形態になっていくのではないかとと思われる。

中学校の「社会」という教科を通して、課題を的確に捉え、課題について考察し、資料などを正確に読みとり、自分なりの意見を持って判断し、他と意見を交換することができる。少しずつそのような「生きる力」を養っていく一つの方策として、「合意形成」の場面を取り入れた授業について、さらなる研究を進めていきたいと考えている。

『あなたの判断力チェック～公民的諸課題を題材に～』

(1) 指導にあたって

今年度の本校の研究テーマが、昨年までの「発達段階を見据えた[確かな学力]の探求」を踏まえた上で「問題解決力」に視点を当てることになったことを受け、社会科でもここ数年間続いていた「表現活動」・「表現力育成」を通じて発達段階の違いを見る取り組みから、何らかの形で「問題解決」につながる取り組みへの変更が求められた。

社会科における「問題解決」とはどのような場面でのどのような能力が要求されているのだろうかと社会科部会の中でも討論を行ってきたが、最終的に「公民的資質」を持った生徒を育てていくためには、何もないところから問題解決のための打開策を創造していくような能力があれば確かに理想的ではあるものの、それを全ての生徒に求めるのは難しいものがあり、それよりも与えられたいくつかの打開策の中から自分なりにどれがいいか悪いか、よりどちらに共感できるかを「選択」していく「判断力」が必要なのではないかと考えた。例えば、将来において生徒たちが最も公民的資質を発揮する場面の1つとして考えられるのが選挙の場面であるが、国政であれ地方政治であれ、彼ら自身が政策や公約を掲げる必要はほとんどないのであり、大切なのは、その時その時の風潮(ムード)に流されることなく、しっかりと政策を選択し、政党や候補者を選んでいくことかと考えた。それがまさに「選択」する「判断力」である。

さて、上記した「選択」する「判断力」を「問題解決」のために必要な基本的な能力としながらも、現実的な社会の中では単にAかBかを「選択」するだけでは終わらない、あるいは発展性がないことも多いのではないかと考えた。確かに選挙のような場面では「選択」しかできないことも多いだろうが、職業の上で、あるいは地域社会を生きていく中では、「選択」だけに留まらず、互いの意見を交換し合う中で歩み寄りできる部分や互いに妥協していく部分を作っていくことも必要なのではないかと、そういう他の意見を参考にしてよりよく問題解決をめざしていく姿勢が中学校における発達段階としてとても大切なのではないかと考えた。このような力を、私たちは金沢大学の林先生のご助言をいただいて「合意形成」の力と呼ぶこととした。

このような考え方を受けて、3年生では諸々の公民的な課題を題材に、まずは個人として、いくつかの意見の中から自分なりにいいと思うものを明確な理由と共に「選択」する能力を、そして次にグループとして討議する中で、何らかの「合意形成」に至った意見を捻出する能力を育てる取り組みを行った。

(2) 現在の3年生のこれまでの社会的能力の発達状況

本校の3年生は、これまで2年間、主に「表現活動」の育成を中心に取り組んできた経緯から、自分で諸課題について調べ、そこでわかった結果をレポートにまとめ、それを読み上げる形式のような表現の能力は高まってきたと感じている。特にレポートのようなものをまとめる力に関して言えば、限られたスペースとはいえ、様々な情報を細かく羅列し、きれいで情報量の多いレポートとして仕上げる力を持っている生徒は多い。

しかし、昨年考察にもまとめたことであるが、それを活用した思考力・表現力となると今一步である。

中学生としての「発達段階」というものを専門的に見た時、こうした力がやや劣っていて当然の年代なのか、それとも徐々に確実に伸びていなければいけないものなのかは、私自身にはわからないが、経験的に考えるに、こうした一般知識の浸透・蓄積がしっかりしている段階に至っている割には思考力に問題

があるのはある面大変不満足である。

特に、ここでいう思考力とは以下のようなものである。これまで現在の3年生はその時直接学んでいる各事象と、それまでに学んで既得した知識を結びつけて思考する能力が不十分という面が見られた。学習能力の傾向として、単純な知識の蓄積(暗記)や何らかの法則に物事を当てはめて思考するのは得意であるが、得た知識や法則を総合して思考・分析するような能力が未発達というものである。

(3) 「あなたの判断力チェック」の実践

最初に行った今年度のオリエンテーション的な課題である「会社再建策」の実践については社会科の冒頭の総論「実態調査」にまとめられているので割愛する。これ以後、3年生の公民ではその内容にも関連させて以下の3つの課題について意見を出し合ってみた。

あなたの判断力チェック!…その2

国会で民法の規定である「名字のつけ方」が議論されることになりました。名字(氏)は現在、結婚する際に夫または妻のどちらかのものを選ぶことになっています。しかし、今回さまざまな要求の中で、このことが審議されることになりました。

特に現実問題として結婚時に名字変更を迫られることの多い女性の立場から、せっかくここまで慣れ親しみ、自分を表すものとして確立してきた名字を捨てなければいけないのはおかしいという主張がなされました。

さて、国会では大きく下記の政党の主張に分かれて論議がなされました。あなたは選ぶとすればどの政党を支持しますか?

A党：現状を維持すべきです。これはある面、日本の伝統を維持するという問題でもあります。また夫婦がもし別姓になったら子供の名字はどうなるんですか?どちらかの親のものを付けるとしても、子供が成長した時、一方の親とは名字が違うなんて違和感があるのではないですか?それだけでなく、今の日本には名字が同じだから親子とわかる制度というのはたくさんあると思います。それらを根底からくつがえすことになってしまうでしょう。

B党：何て古いことを言っているのですか!違和感というのは他の人は違うのに自分だけ…という時に感じるのであって、みんながそうなれば感じません。名前を変えたい人は変える、変えたくない人は変えなくてもいい制度にしていくべきです。これが個々のアイデンティティを守ることになるのです。

C党：それさえもう古いと思います。名前なんてもうどうでもいい時代ではありませんか?基本的には個人は番号で管理される時代なので、名字も何も全て自由にしてもいいくらいです。結婚する時に、新しい名字を考えることもできるというのはどうでしょう。

…というものでした。さて、あなたはどの党の意見を支持しますか?

1. 自分の意見をまとめよう！ ……………私なら 党の意見を支持する。

※その理由は

※もし、別の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか？

2. グループで話をしてみよう！

※逆の立場の意見で納得できたことは…

※班で何か一ついい案を立ててみよう。(いろんな条件を付けたり、折衷案であっても構わない)

この課題については、自分たちの生活に密着した話題であったためか、生徒も自分なりの意見を真剣に記述する姿が見られた。全体としてはA党の「現状維持」指示派が多かったようである。まだ女子の中でも自分の名前をも含めたアイデンティが確立されていない時期のためではないかとも感じられた。

グループ討論では、なかなか「合意形成」は出来にくい話題であったようである。一部の諸外国では当たり前になっている自分の父母どちらかとは名字が違うという状況が、日本の制度に親しんだ子供たちには理解しがたいようで、現状維持を指示する生徒が妥協できない雰囲気であった。それでも中には一部、B案やC案の支持者もおり、そうした生徒との討論を通じて、価値観の多様さを感じ取っていたようである。

あなたの判断力チェック！…その3

教科書P44 (3) 共生社会への参加より

附属中の学校生活の中では1年次に「車いす体験」や「平和町養護学校への訪問」などわずかではありましたが、「共生」という体験をしました。しかし、実際の共生とはどのようなものでしょうか。考えてみましょう。自分のこととして真剣に……。

今日の帰宅時、不幸にもあなたは交通事故に遭ってしまったとします。大事故だったにも関わらず一命は取り留めました。それどころか、外見上も全く傷などは残りませんでした。しかし、①足に力が入らなくなり、車いすでの生活、リハビリをしても何とか松葉杖で歩ける程度しかよくなりませんでした。②頭を打った影響でほぼ失明に近いほど視力が落ち、物が見えなくなっていました。

勉強…成績的には優秀です。先生の話聞いていても全て理解できます。ただ、目が見えないので黒板を見たりノートに書いたりすることは出来ません。テストも口述筆記(耳で聞いて口で答える)しか出来なくなります。これまで通り、友達とおしゃべりも出来ます。笑ったり怒ったりも出来ます。でも階段は1人では登れません。登校・下校時、移動教室の時、全てクラスメートの助けを借りながらの重労働です。ましてやトイレに行くのも一大事です。

明日のあなたの状況が、万が一、上のようなものだったら…と考えてみて下さい。

病院で泣いていても前途は開けません。前向きに生きるあなたは何とか頑張ろうと考えます。しかし、「共生」という言葉や「バリアフリー」というものが、いかにうわべだけのきれい事で、現実的に

はそんな甘いものじゃないことに気づいていくことになります。

(本当に障害を持った方の立場になれば軽々しく言えないことばかり…だからこそ真剣に考えてみよう)

1. 自分がその本人だったらどうするだろう！………私なら

①まず学校は…これまでの友達のいる今の学校・今のクラスに行きたい…けど行ってもみんなに迷惑もかかるだろう。じゃあ身体障害者の方々が通う学校や盲学校に明日から行って学習しますか。

②どういう進学を考えるだろう。普通なら有名進学校に合格できた…イヤ、今だってその学力はある。そんな時…。

2. 自分のすぐ横の友人がそんなふうになったら、あなたは正直どう感じるだろう？…私なら

①きれい事ではどう言っても、そういう友達の世話を毎日やらなければいけなくなったら本心はどう感じるだろう？

②本当の意味の「共生」とは、そういう友達であっても、毎日、その友達を憐れんだり蔑んだりせず、同じ1人の人間として認め合って生きていくことだとすれば、あなたにとって「共生」の難しさとはどういう点だろう？

3. 自分であれ友人であれ、では「共生」社会を実現するためには何が必要なんだろう？

※考え方の面と物理的な面があるのではないだろうか…

4. グループで互いの意見を言ってみよう(1~3までの内容で) いい意見をメモしておこう。

※グループで真の「共生」社会実現のためには何が必要なのか、いい案を立ててみよう。

どの生徒もこうした話題には「安易に」「冗談半分で」答えてはいけない内容だということを理解していたのか、しっかりと考えている様子を感じられた。そしてその結果を見ると、きれい事ではなく生徒たちの本音が最も感じられた。つまり、自分が万一そういう状況に置かれても、出来れば今のまま学校に登校させてほしい、しかし、自分の周囲の友達が万一そういう状況になったなら出来ることなら学校には来ないで欲しい、というもので、生徒たちは自分の意見に自己矛盾があるのを知りながらも正直な思いを記述していたように感ずる。

その上で、グループ討議では「考え方」の面よりも「物理的な共生実現手段」についての話が多くなった。エレベーターの設置や点字ブロックの設置など校舎内のさらなるバリアフリー化などの解決策が中心となり、精神面の話が薄くなったのが残念であった。

あなたの判断力チェック！…その4

資料集P31 経済活動の自由(職業選択の自由)より

理想的なドラフト制度を考案しよう！

プロ野球を好きな人もいれば、関心のない人もいるでしょう。しかし、昨年、近鉄-オリックスの合併問題から始まり、楽天という新球団が出来、今年には史上初めて(つい先日まで)セバ交流戦が行われるなど、プロ野球もいよいよ改革の波が押し寄せている…ということぐらいは知っている人も多いと思います。

さて、ドラフト制度です。そもそもドラフトとは各球団の戦力均衡のために行われるものです。金持ち球団ばかりが力のある選手を集めていくことのないように、プロ野球全体の発展のために考えられたものです。アメリカでは大リーグでもNBAバスケットでも実施されています。日本でもその方針で行われ始めたのですが、現在は自由獲得枠が出来るなど半ばドラフトも意味を無くしつつあります。

(社会人と大学出身者の一部のみ球団を選択でき、高校生やその他は球団選択ができない)

今回も究極の(…じゃないかと思われる)2案を提示します。自分がプロ野球のコミッショナー(責任者のような人)になったつもりで、まずどちらの案に考えが近いかを出し、グループで理想的なドラフトを考えてみましょう。

A案:プロ野球というのは「お客さん」がいて初めて成り立つものです。「観客」が楽しいと思ってくれなければ結局は成り立ちません。プロ野球全体のファンを広げていくためには一部の球団だけではないプロ野球全体の発展が必要です。

だからこそドラフトは厳正に行い、完全ウェーバー制で実施すべきです。

(※ウェーバー制:前年度の年間順位の低かったチームから順にドラフト指名権が与えられる方式:弱いチームから確実に選手が補強される)

職業選択の自由と言いますが、選手はどの球団に入ろうとも「プロ野球」という職業には就けているわけです。球団選択の自由まで認めなければいけないのかは疑問です。(普通の会社だって希望しない遠方へ転勤させられることもあるんです)ましてや現在はFA制度も認められています。

自由に球団を選ぶのはFAを取ってからで十分です。

(※FA制度:何年間か同一球団で頑張れば自由に他球団へ移籍する権利を得られる制度:今の日本は10年:ただし相手球団に求められなければ…)

B案:強いチームが勝つ…そんなことはスポーツの鉄則です。強いチームは選手だけでなくフロントだってそれなりに努力しているのであり、努力もしないチームがドラフトで恩恵を受けようというのは甘い考えです。また職業選択の自由から考えても自分の希望する球団に能力があるのに入れないというのはおかしいことです。そこで、ドラフトの全面廃止を提案します。サッカーだってドラフトなんかはしていません。各球団がもっと選手が集まってくれるための努力をしなければならないし、さらに年俸制度ではなく、試合への出場給や勝利給にしていくべきです。そうすればどれだけ人気のある球団に入団できても試合に出られなければ給料が当たらないわけですから、賢い選手なら自分の能力を考慮して、まず出場できる球団を選んでいくことでしょ。

1. 自分の意見をまとめよう! ……………私なら 案をどちらかといえば支持する

※その理由は

※もし、別の意見に変わるとしたらどんな条件を付けますか?

2. グループで話をしてみよう!

※逆の立場の意見で納得できたことは…

※ドラフト制の賛否も考慮し班で何か一つベストな新人選手の獲得方式を考えてみよう。

生徒の比較的興味のある分野ではないかと考え、課題としてみたが、内容的にかなり専門的であること、また、専門用語の意味なども説明はしたもののかなり理解が難しく一部には誤解を含んだ解釈があったことなどから、生徒たちにとってはかなり難しい内容となった。

さらにプロ野球の経営者的な立場から真剣に改革案を考察する者と、あくまでファンの興味本位の立場から考察もあり、立場の違いも意見の違いにつながった。

そんなよくわからない内容の中でも、A・Bを選ぶことは生徒みんなが積極的に取り組んでいた。ただ、「合意形成」の意見集約では内容的にやや専門的であったためか、残念ながらあまり発展性のない意見ばかりとなった。

(4) 実践を通じての感想と考察

3年生として「問題解決のための判断力」がどれだけ付いているかということを考えた時、現在の生徒たちは与えられた情報をたよりにAかBかを「選択」する判断力はまずまず付いてきている。ただ、それは現代っ子らしい非常にデジタル的な選択であり、たとえば、Aならば何が良くて、どういう問題点が潜んでいるのか、Bならば逆にどういう点はいいけれど何が問題となるのか、決して深い洞察があるわけではなく、表面的な事象のみでの判断となるような傾向である。

たとえて言うなら、今年（2005年）9月の衆議院総選挙の際、小泉首相率いる自民党は争点を郵政民営化に賛成か反対かに絞って選挙戦を戦い、結果として無党派層の大量の支持を得て大勝することになるが、現在の生徒たちの「選択」方式を見ると、この状況がとてもよくわかるのである。つまり、ある問題に対して「A」か「B」かを選んでボタンを押すだけ…というような非常にデジタル式の解答方法を生徒たちはとても得意にしているが、逆に「A」か「B」かも選ぶと同時に「C」か「D」かも「E」か「F」かも選びましょうというように問題が複合化すると、生徒たちは閉口してしまう傾向がある。

それでも、多くの者が迷いながらも自分なりの意見を持つことが出来るのは一定の「判断力」であろう。同じ「選択」するだけの「判断力」であっても、より深い思考・分析に基づいた「選択」を促していきたい。

次に「合意形成」であるが、これは今回の数回の課題内容が難しかった面もあるのか、なかなかうまく進むことが出来なかった。1つの課題にはいくつもの問題点が内在しているものだが、生徒たちはそのどの部分で歩み寄ったり妥協したりすればいいのか、微妙に論点がずれていたりする面もあった。

これに関しては、今後も取り組みを続けていくことで、論点を絞っていく分析力のようなものも育てていければと感じている。

「総論賛成・各論反対」という言葉があるように、「合意形成」を進めていくことは大人の世界でもなかなか難しい。しかし、変な利害関係のない中学生年代だからこそ、どう考えていけば互いの「合意」を得るような結論に持っていけるのかという考え方を身につけていかせたい。